

シンガポール”Community in Bloom”プログラムに関する研究：
コミュニティ・ガーデンの導入意図と利用実態に着目して
Community Gardens under “Community in Bloom” Programme in Singapore:
The gap between their expected roles and the way they are used

37-166138 衣松 佳孝

Currently, green spaces called “community garden (CG)” are set up inside cities mainly in European countries and the U.S. As the increase of the number of researches about CGs, the common positive effects of CGs were clarified such as strengthening community bonding including among different ethnic groups and improving mental, physical and social health. In this situation, Singapore, a multi-ethnic country in south east Asia, introduced a CG development programme called “Community in Bloom (CIB)”. This research tried to consider the expected roles of CG under CIB programme in Singapore, clarify how the CGs are used by participants, and consider the gap between them. From surveys, the expected role of CG under the CIB programme was interpreted as the means to strengthen community bonding among residents of all age and races. However, it was clarified that there were biases on the age group and ethnic of participants. Based on the results from those process, the way of improvement of the CIB programme, future directions of greening policy of Singapore, and further spread of the concept of CG were discussed.

1. 背景と目的

現在、欧米を中心にコミュニティ・ガーデン (Community Garden、以下 CG とする) と呼ばれる空間が整備されている。これらの空間は移民・難民の流入、所得格差の拡大、低・未利用地の増加、食への関心の高まりなどを背景に住民主導の活動として整備・運営されており、地域コミュニティのつながりの強化や精神的・身体的・社会的健康の促進などへの効果が報告されている (例えば Armstrong 2000)。

一方でアジアに位置する多民族国家シンガポールにおいては 2004 年に発表された新たな都市コンセプト”City in a Garden”のもと政府機関が主導する形で「Community in Bloom (CIB)」プログラムと呼ばれる CG の整備プログラムが開始された。2005 年に開始された本プログラム

では主に住民の要請に基づき CG が整備される仕組みとなっており、現在では全国に 1017 箇所の CG が整備され地域住民など 20,000 人以上が参加する取り組みとなっている^{1,2,3}。

欧米での CG 整備の流れを受けアジアにおいて異なるアプローチにより CG が整備されており、今後のアジアの他国における、また政府・住民協働による CG の展開可能性を考察していく上で有益な事例と考えられる CIB プログラムであるが、既往研究としては、制度の特徴と政府機関が空間整備に関与することによる影響を考察した研究(Tan et al. 2009)及び CG に関する責任から住民間で起こる組織化と排他性を考察した研究(Neo et al. 2017)の二報にとどまり、政府により導入された CG に意図された役割と住民の利用実態、そして政府・住民協働のアプ

ローチ故に両者の間に生じる齟齬に関する知見は不足している。そこで本研究では、シンガポールにおける CIB プログラム及びプログラム下の CG を対象とし⁴、文献レビュー及び関係主体への聞き取り調査を基にシンガポールの都市コンセプト、緑地政策の下で意図された CIB プログラム及び CG の役割を考察するとともに、住民への聞き取り調査・アンケート調査を通じて利用実態及び彼らが感じる CG の効果を明らかにする。そしてこれらの結果を通しプログラムの課題及びその改善策、CG の他国での展開可能性を考察することを目的とする。

2. 研究対象・手法

2-1. 研究対象

本研究では、CIB プログラム及びプログラム下のコミュニティ・ガーデン全 1017 箇所のうち地域住民による管理が行われている公営住宅敷地内及び民間住宅敷地内に存在する CG を対象とする(表 2-1)。CIB プログラムでは活動主体の要請に基づき CG が整備され空間整備後は活動主体により自立的に管理が行われる。また整備及び管理においては複数の政府機関⁵により支援が行われる。活動の流れと政府機関の支援内容の概要を図 2-1 に示す。

表 2-1 CIB プログラムの活動主体・活動場所・設立数

活動主体	活動場所	設立数
公営住宅の住民	HDB 団地内	413
民間住宅の住民	道路沿いや駐車場	88
教育機関	教育施設内	319
	病院	
	宗教施設	
団体組織	ホテル	204
	省庁などの敷地内	

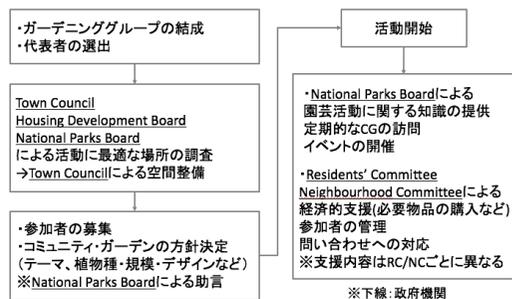


図 2-1 活動の流れと政府機関による支援内容

2-3. 研究手法

(1) CIB プログラム・CG の意図された役割

調査 1 として文献レビュー及び関係する政府機関 (NParks) への聞き取り調査 (2017 年 6 月及び 8 月実施) により情報を入手した。調査項目はプログラムの設立経緯、目的、意図した効果及びプログラム運用上の問題点と将来の展望についてである。

(2) 住民による CG の利用実態

政府機関 (People's Association) 及び CG 参加者からの紹介 (スノーボールサンプリング) を通じた調査対象とする CG の抽出を行った。調査対象として抽出された CG を図 2-1 に示す。その後抽出された対象 CG への訪問を行い、参加住民への聞き取り調査 (調査 2) 及びアンケート調査 (調査 3) を行った。アンケート調査に関しては CG の代表者を通じた配布・回収も行った。聞き取り調査・アンケート調査の回答数及び有効回答数を表 2-2 に示す。

聞き取り調査の項目としては CG 参加の動機と感ずる効果について、アンケート調査の項目としては性別、年齢、国籍、民族、職業などの基本属性と CG 参加及び継続の動機、そして効果について質問した。

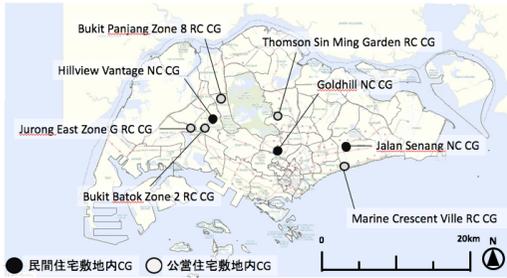


図 2-2 調査対象 CG

表 2-2 回答数及び有効回答数

	回答数	有効回答数
調査 2	26	23
調査 3	49	49

3. CIB プログラム・CG の意図された役割

3-1. 独立と「Garden City」コンセプトの発表

シンガポールはマレーシアからの独立当時、住宅・衛生問題や民族の融和などの課題を抱えた旧植民都市であった。このような中、当時の首相リークワン・ユーは 1967 年に都市環境の改善を通じた魅力的なアジアの中の先進都市への転換を目指す上での都市コンセプト「Garden City」を提唱した。このコンセプトの下、関連政府機関の設置や法整備などが行われ政府主導による大規模な衛生環境改善、緑地（街路樹、公園）整備が行われることとなった。

3-2. 新たな都市コンセプトの導入

その後シンガポールは経済発展、人口増加を経験し多様な文化を持つ人々が共に定住し年齢を重ねる「多民族国家」へと変貌を遂げた。そして現在ではシンガポール第一世代の高齢化という新たな課題に直面しつつある。そのような中、新たな都市コンセプトとして「City in a Garden」が 2004 年に発表された。緑地計画においては、緑地間ネットワークの構築や緑地の

多機能化といった政府による継続的な緑地整備が行われる一方、これまで政府単独であった主体に住民がという新たな主体が追加され緑化が進められるとしている。また 2013 年に発表された土地利用計画では今後の開発計画に関し、

「Our development strategy is to make Singapore one of the most liveable cities in the world – a city for all ages and a country we are proud to call home.」と述べられており、新たな都市コンセプトはこれまでのように魅力的なアジアの中の先進都市を目指すとともに、住生活の向上を通して国民の「母国」という感覚を醸成することが目標として追加されていると言える。

3-3. CIB プログラム・CG の意図された役割

以上の背景を踏まえると、多民族社会を抱えまた新たに高齢化社会を迎えつつある中、住民による緑化施策として導入された CIB プログラムにおける CG は全年齢層、民族から成る地域のつながりの強化を意図した空間であると解釈できる。

4. CG の利用実態と参加者の感じる効果

4-1. 参加者の基本属性

– 民族・国籍

全体の 80%以上が中華系シンガポール人であった(図 4-1)。また 3 名が他の国籍の参加者であった。また回答者 49 名のうちシンガポール人 46 名に関して住居タイプ別の民族構成と対象 CG が立地する都市計画区域 (Subzone) の人口構成と比較したものを図 4-2 に示す。公共住宅敷地内の CG に関しては回答者の民族構成と立地区域全体の民族構成との間に差は見られなかったが、民間住宅において立地区域全体の民族構成に比べ中華系シンガポール人の割合が大き

い結果が得られた。また参加者の民族・国籍構成に関して聞き取り調査における「CG は民族間・国際交流を促すか」という質問に対し民間住宅の住民で「Yes」と答えた住民が述べた理由の内容をまとめた結果を参照として図 4-3 に示す。「複数の民族・国籍の人々により訪問されているから」と答えた住民が最も多く参加者に民族的偏りが存在する一方で CG が多様な民族・国籍の住民に訪れられている実態が示唆された。

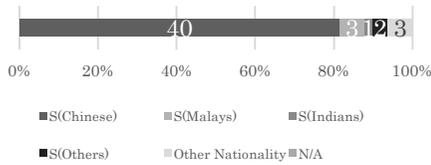


図 4-1 回答者の民族・国籍構成 (N=49)

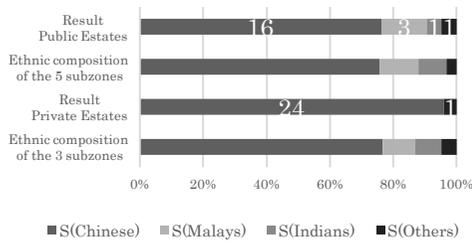


図 4-2 住居タイプ別民族構成 (N=46)

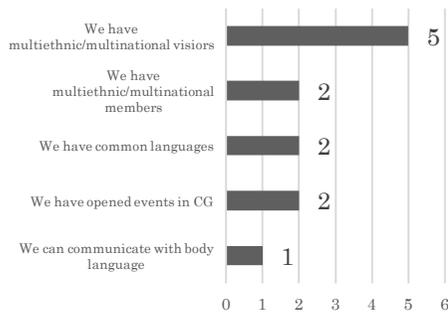


図 4-3 民族間・国際交流に関する回答 (N=14)

50 代の回答者が最も多く、50 代から 70 代の中老年層の参加者が全体の約 73%を占めるという結果が得られた(図 4-4)。また参加者の職業に関しては上位 3つの職種として 49 名中退職者が 16 名、主婦が 14 名、会社員が 10 名という結果が得られた。年齢層及び職業に関しては住居タイプごとに違いは見られなかった。

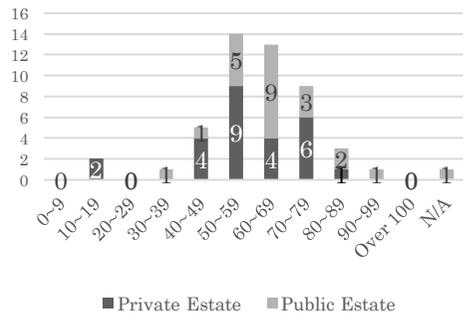


図 4-4 回答者の年齢構成

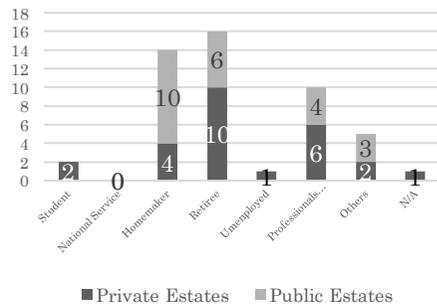


図 4-5 回答者の職業構成

4-2. 参加者の CG 参加/活動継続の動機

複数回答可としたアンケート結果の回答者割合を見てみると、開始の動機として高いものは“Hobby”(約 71%)及び“Communication”(約 65%)、現在の動機として高いものは“Communication”(約 78%)及び“Hobby”(約 71%)であった。このように自身の余暇活動の充実を動機としている回答者が多数存在する一

方、地域の人が集まる場作りや美化、環境や食への関心などの動機も存在した。

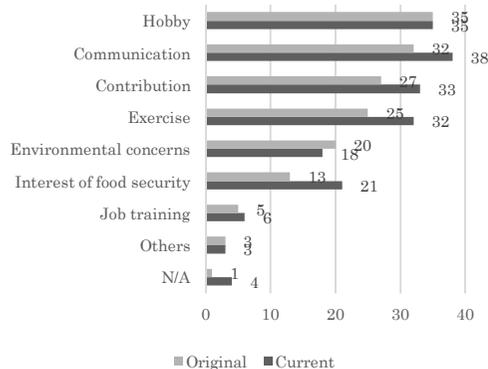


図 4-6 CG 参加及び活動継続の動機

4-3. 活動実態

一週間の活動頻度に関してはほぼ毎日 CG を訪れる 6 回以上と回答した参加者と、主に週末に作業をしていると考えられる 2 回以下と回答した参加者の大きく 2 グループが存在した (図 4-7)。また参加者は「ガーデニングに関する知識・経験・道具の共有」などを通してメンバーと交流し、また「農作物の共有」や「イベント」などを通してメンバーではない住民と交流を行っている実態が明らかとなった (表 4-1、4-2)。

表 4-1 メンバー間の交流促進活動

Q: Please share your experiences about activities that promotes communications among members of gardening group in the community garden.	N=21 N/A=1
Sharing knowledge, experience, and tools of gardening	9
Gardening in CG	5
Chatting with others	3
Events in CG	3
Other activities in CG	3
Others	4

表 4-2 近隣住民との交流促進活動

Q: Please share your experiences about activities that promotes communications with neighbours who are not member of community garden.	N=21 N/A=1
Sharing vegetables	10
Events	9
Sharing information/knowledge	8
Others	4

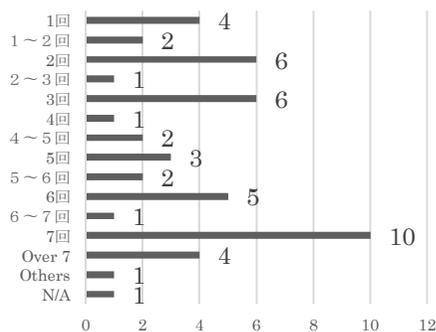


図 4-7 一週間の活動頻度(N=49)

4-4. 参加者が感じる CG の効果

参加者が感じる CG の効果としては、地域のつながりの強化や交流の促進、精神的・身体的健康の増進、余暇活動の充実、小学生や幼児への自然体験の提供などが挙げられた (図 4-8)。

Q: Please write down freely about the effects/benefits of community garden that you feel through activities.	N=49 N/A=6
CG creates/strengthens bonding	9
CG promotes understanding of others	7
CG brings people together	9
CG promotes communication	8
CG helps to make/get to know new friends	12
CG is good for health	2
CG improves mental health	6
CG improves physical health	3
CG promotes producing/sharing foods	3
CG is a place where people learn/increase knowledge	8
CG is a place where people can enjoy their time	5
CG is good for education	2
Others	5

図 4-8 住民の感じる効果(N=49)

5. 研究結果まとめ

本研究では 3 章において CIB プログラムによる CG が、住民によるガーデニングを手段とした全年齢層・民族から成る地域のつながりの強化を意図していたとの考察を行った。また 4 章においては住民による CG の利用実態を明らかにした。そして調査結果から両者の間には、民間住宅における参加者の民族的偏りや、参加者の年齢層の偏りといった政府の思惑通りにはいない齟齬が存在することが考察された。またその一方で多様な年齢層、民族・国籍の住

民により CG が訪問されている可能性も示唆された。

6. 考察

・ CIB プログラムの改善

CIB プログラムが抱える課題としては、参加者の民族及び年齢層に偏りが存在することが挙げられる。この点に関しては CG 内の公開スペースの整備促進や周囲の住民を巻き込むイベントの支援、そして教育機関との連携の促進などを通して訪問から参加への段階的な支援を行うことが考えらる。また活動の広がりを受け例えばアロットメント形式の CG の導入や公園など他の緑地の管理など活動形態の拡張も今後検討されうると考えられる。

・ 政府・住民協働による CG の展開可能性

政府・住民協働による CG 整備の展開可能性に関しては、シンガポールにおける CG が多民族社会という社会構造や高齢化というその変化を背景に導入され、かつ既存の知見と同様の効果を参加者が認識していることから同様の社会構造・問題を抱える国への CG の展開が考えられる。実際の導入には土地所有権やそれに紐づく用地確保の問題が存在するものの、例えば日本における市民農園などにおける行政によるコミュニティ醸成につながる活動の提供や園芸技術・知識の提供など今回の事例が部分的に応用可能であると考えられる。

【脚注】

- 1) Jeanne Louise Conceicao (2015), "Community in Bloom: Creating Space for Community Ownership", Case Studies: Building Communities in Singapore
- 2) Data.gov.sg ホームページにて提供された GIS データ中のポイントデータ数
- 3) National Parks Board ホームページ (1月23日最終閲覧)
- 4) 2005年のプログラム開始以前に自主的に整備され

た CG に関しても現在では CIB プログラム下の CG として登録されている。

- 5) プログラムに関わる政府機関の概要を以下に示す。
Town Council (タウンカウンスル): HDB flat の公共・共益施設の設置・維持管理を行う組織。
Housing Development Board (住宅開発庁): 公営住宅 (HDB flat) の供給を行う機関。
National Parks Board (国立公園庁): 国内の緑地の整備・管理を行う機関。
Residents' Committee, Neighbourhood Committee (居住者委員会): 居住者間交流の促進を主な目的とする組織 (RC: HDB flat NC: 民間住宅) であり有志の住民により運営されている。

【引用・参考文献】

- 1) 渡辺雄太、雨宮護、新保奈穂美 (2017), 「ドイツにおける多文化共生ガーデンの取り組み実態とその社会背景」、日本都市計画学会報告集、No.16
- 2) 浜田麻里奈、飯田晶子、横張真 (2016), 「高齢者の健康維持に資する農の活動に関する研究—横浜市郊外を対象として—」、都市計画論文集、Vol.51、No.3、pp.1024-1029
- 3) Donna Armstrong (2000), "A survey of community gardens in upstate New York: Implications for health promotion and community development", Health & Place, Vol. 6, Issue 4, pp.319-327
- 4) Leigh Holland (2004), "Diversity and Connections in Community Gardens: a contribution to local sustainability", Local Environment, Vol. 9, No. 3, 285-305
- 5) Jonathan 'Yotti' Kingsley, Mardie Townsend and Claire Henderson-Wilson, "Cultivating health and wellbeing: members' perceptions of the health benefits of a Port Melbourne community garden", Leisure Studies, Vol. 28, No. 2, 207-219
- 6) Leon H.H. Tan and Harvey Neo (2009), "'Community in Bloom': Local participation of community gardens in urban Singapore", Local Environment, Vol.14, No.6, pp.529-539
- 7) Wong Hui Ying, CLC (2015), "Encouraging Inclusivity in Community Gardens"
- 8) Harvey Neo & C. Y. Chua (2017), "Beyond inclusion and exclusion: community gardens as spaces of responsibility", Annuals of the American Association of Geographers, Vol. 107, No. 3, pp. 666-681
- 9) Puay Yok Tan, James Wang, and Angelia Sia (2013), "Perspectives on five decades of the urban greening of Singapore", Cities, 32, 24-32
- 10) Belinda Yuen (1996), "Creating the Garden City: The Singapore Experience", Urban Studies, Vol. 33, No. 6, 955-970
- 11) Department of Statistics Singapore (2017), "Population Trends 2017"
- 12) June Gwee (2015), "Case Studies Building Communities in Singapore", Civil Service College Singapore
- 13) Urban Redevelopment Authority (2001), "Concept Plan 2001"
- 14) Urban Redevelopment Authority (2013), "A high quality living environment for all Singaporeans: Land use plan to support Singapore's future population, January 2013"